

第2回内航船舶の代替建造促進に関する懇談会議事概要

【委員からの主な意見】

- ・ 運賃・用船料が低迷している、将来の見通しが不透明、金融機関からの融資が受けにくい、といった状況であるため、代替建造せずに船の寿命を長くして対応する方針である。
- ・ 内航船を建造している造船所及び技術者が減少しているため、計画的に造船していく必要がある。船種によっては、造船所の選定は困難を極めており、船価が高くて、建造実績のない造船所と契約することもある。また、造船所側と見積もりの折り合いがつかず、建造を断られることもある。
- ・ 造船所の立場からは、外航が2～3年先の受注が見込めるため、内航にもそういったことが求められる。また、造船所としては現在の用船料をもとに算出される船価での建造は難しいだろう。
- ・ 平成17年4月から定員規制強化の法律が施行されたため、船員不足は深刻であり、事業者間での船員の引き抜きが行われるケースもある。今後は一般の大学を出た人でも資格が取りやすくするなど、門戸を広げる必要があるのではないか。
- ・ 人間の専門性に依存したままでは、内航の発展は難しい。熟練した人間の能力が必要であった部分を、コンピューターで置き換えるなどして省力化するなど、コストと相談しつつ効率化を図るべきではないか。
- ・ 内航船の技術革新を進め、効率化を図ることが代替建造にもつながるのではないか。